

むら 地域の宝 四谷の千枚田



四谷の
千枚田だより



第 157 号

Facebook
小山舜二
ご覧ください

実りの秋到来

今年はお天道様の影響か、動植物の出現、生(成)長が例年に比べ二週間ほど早い。例にとると、牟呂松原堰堤魚道の遡上アユが四月初旬と二〇日ほど早くみられ、ヤマアカガエルも二月の初めの雨の日に産卵が常識であったが、一月十日の雨の日に産卵してしまった。盆の十三日に満開の夏エビネの写真撮影が楽しみになっていたが、未枯れてしまっていた。稲も十日以上早く黄金色に実るなど、自然環境、季節変化に影響が見られたことは地球温暖化の現れか、ちょっと心配だ。そうだ、五十年ほど前はこの地でも四十〜五十cmの積雪があったり、日陰の田んぼでスケートを楽しんだりした覚えがある。また、ゴキブリも見たことはなかった。

脱線してしまったが、千枚田の稲が倒れなく(倒伏)黄金色を見せるのは十年に一度、あるか無いかの光景で今年も圧巻である。

今、千枚田は三遠南信道路、新東名開通に伴い、全国規模の見学者が押し寄せ、魅了している。ほんの一部の百姓や住民から批判めいた言を聞くことはあるが、そんなに害になるとは思っていない。まあ、自分

が他所の観光地へ遊びに行った事を思えば愚痴も、愚痴のうちだ。

よく、自販機はないかと聞かれるが、全国の棚田のうちでもゴミの多いのが自慢だ。自販機にお金を入れて甘ったるいジュースを飲むより



爽やかな空
気と癒しを
「ただ」(代
金不要)で
提供してい
る四谷の千
枚田。もし、
その気があ
つたら奥三
河やこの周
辺で「まん
ま」でも食
べて行って
くれりゃあ、
それで充分
だと棚田の
百姓は嘯く。

九月三日、炎天で稲刈りの最中、頭痛、吐き気、冷や汗、こむらがえりが生じた。四阿で休んでいたら仲間とツーリングで来たという若者が「投句箱」にお金を黙って入れていかれた。ふらふらしながらも、ついつい会釈を返した。

さて、ぼちぼち「千枚田だより」を書こうとした矢先、大怪我をしてしまった。(動くことが出来ないため、寝床で失礼します)

今年も冬耕の時分から二ホンジカ四〜五頭が田んぼを運動場代わりに飛び回り、思案していた。田植後は野生動物(イノシシ・サル・シカ)の出現も例年になく少なく、捕獲努力の表れと喜んでいたが、五月二十九日、二ホンジカが早苗をバリカンで選定したほどきれいに食べて行った。八月の盆ころからイノシシが沢伝いに出没、あちこちで被害が続出した。その、対策として爆竹、ロケット花火(九時(舜)・十一時伸一夫婦)で威嚇するのが例年の日課となっている。見回りに行くとき古宿でウリ坊が五〜六頭、佐賀では親子づれ三頭(内一頭捕獲)、細尾五頭(内三頭捕獲)によく出くわす。

九月六日、八時三十分、雨間にバイクで爆竹の威嚇に出かけた。まず、ベンチから下の田んぼに爆竹で脅し、次の地点へと・仮設トイレの道沿いにウリ坊がうろうろ、引っ掛けるとうり坊共々沢に転落してしまふと瞬時にバイクのブレーキを掛けた途端、転倒。バイクの下敷きになってしまった。懐中電灯でみる

と膝小僧がパッキリ、肉は見えない、膝小僧のお皿も丸見えの状況で何ともならない、そこで、棚田の百姓で親友の小山泰弘さんに止血の布を持って、と助けを求めた。膝はパッキリ割れて血だらけ、足首は捻



挫状態で動かないし、肘も擦過傷が大きい。こりゃあ、救急車で夜間診療医に処置を、と話したものの、時間も遅いし当直医の専門分野も解からない。ああだ、こうだの結果、医者は明日にして傷口を洗い流すことにした。我が家は風呂まで湧水でお茶や飯は美味いが、生水で常在菌や悪玉菌が心配と思い、泰つちやの家の水道水で傷口を洗い流してもらった。また、その泰つちやは無

類の清潔、潔癖感の性格で痛さに涙をこらえて我慢している(舜)にも関わらず丁寧丁寧に、馬鹿丁寧に吹きだした肉を抑え込むように傷口を洗い流してくれた。

早朝、お医者さんに受診、お医者さんも傷の大きさに驚き、昨夜、診ればよかった、よく我慢した。と・足も骨折の疑いがあり取りあえずレントゲンの結果、骨折は免れた。

久しぶりの大怪我、膝小僧のお皿は見えるし肉も割れてケンタッキーフライドチキン状態となつてしまった。

傷口は思ったより深く、裂傷肉の縫合、皮膚の縫合に約百針、一時間半も費やし先生もぐったり。

保存活動二十六年、忙しさに感じてお医者さんとは無縁であったが、医師不足をカバーする緊急医制度、夜間緊急患者の対応、対策の必要性が身を持って味わつた。

稲刈りシーズン到来

連日の雨で水が引かない田んぼが多い、まずいことに、また、来週は雨予報だ。バインダーも足も泥濘に踏み込みながら必死に稲刈り作業をする百姓は気の毒だが、訪れる観光客は稲刈り作業が見られて喜んでいる。また、泥まみれで四苦八

苦しんでいる作業風景を「いい、被写体」とばかり自慢げにシャッターを切って楽しんでる。

来訪者のあまりの多さに「土・日は田んぼに行かない。という百姓がでる始末だ。



稲刈り他

- 九月十五日、豊橋調理製菓専門学校
- 九月十八日、新城高校農業クラブ
- 九月十八日、敬老会
- 九月二十二日、愛知東こども農学校
- 九月二十八日、鳳来寺小学校

行 平成二十八年九月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二